

と考へてゐるが實せられぬ。石川郡の領域はもと犀川以南であつたが、後に犀川・淺野川の間には狹まる舊加賀郡の一部が加つたから、地方人は前者を大石川、後者を中石川と呼んだこともある。

イシカハジユウ 石川見遊 金澤の俳人。集雅堂と號した。初石立氏。通稱文二、後助綱。齋を池田九華に學び、堤町に版木業を營み、明治十三年七月卅一日六十一歳で歿した。

イシカハシユンタイ 石川舜台 眞宗東派の僧。號は節堂。天保十二年十月八日金澤永順寺に生まる。十歳江戸に出で眞宗の教義を學び、二十歳金澤に歸り眞憲塾を創立し、宗乘と英漢學とを教へ、次いで越中今石動の道林寺に住し、明治五年本願寺大谷光瑩が政府の命に因り支那・印度・歐洲を巡遊するに従ひ、又本山寺務の廓清整理を事とし、大正十年八十歳に至るまでに事務總長を勤めること五回に及んだ。晩年病を金澤長町道林寺の別坊に養ひ、昭和六年十二月三十一日九十一歳を以て示寂した。

イシカハタケマサ 石川孟雅 通稱太郎左衛門。父幸七が前田吉徳の側室善良院と縁故あるを以て、寶曆八年五月孟雅に新知百五十石を賜ひ、組外に班し、次いで馬廻組に轉じ、江戸廣式御用達に任じ、享和元年歿。子孫世世藩に仕へた。

イシカハホウコウキ 石川訪古遊記 一冊。天保十一年津田鳳卿の著。石川郡内を遊歴して、村老の口碑傳説を徴し、古蹟を搜索し、古典を引きて考證したもの。漢文を以て記されてゐる。

イシカハモヘイ 石川茂平 初めて前田利

長に召出され、足輕頭等に任ぜられた。鳥越・八王子・大聖寺・大坂諸役に従ひ、屢加恩を得て祿二千七百石に至つた。その嫡子與三右衛門は富山藩に仕へ、三子忠左衛門の統は永く加賀藩に仕へた。

イシカハモン 石川門 金澤城三丸堀手の門で、その門前の西方に蓮池堀、東方に白鳥堀があり、その間に土橋が通じて居たのであるが、今は稍形勢を異にしてゐる。石川門の名稱は大手の河北門と共に、前田利家入城の初からあつたもので、石川郡の方向に對してゐるからである。この門及び附近の建造物は、寶曆九年の災後に成つたもので、昭和十年五月十三日國寶に指定せられた。門の幅は一〇米九、桁形は三三〇平方米五八。左方の櫓は菱形、右方は正方形であり、東丸の東隅にあつた菱櫓と白鳥櫓の突出櫓とは、相協力して紺屋坂上の道路附近に十字火を浴びせることができた。左方の櫓は二層で、上層約三三平方米、下層六六平方米である。その上層の矢狹間は小さ過ぎる感があるが、下方は横幅を廣くし、唐破風を使用して、稍美術的に出来て居る。城櫓側壁内の木鐸は、皆矢竹木鐸になつて居て、今でも細一筋朽ちて居ない。又その屋根は全部鉛瓦葺で、被覆した鉛は、厚さ〇糶四五乃至〇糶七六の純鉛である。門の左右に若干の太鼓射も亦現に存し、その腰に張つた海風壁も平瓦を煉瓦積の如く並べた點に特徴がある。

イシガミ 石神 加賀・能登の神社には、石を以て神寶にしたものが往々にしてある。江沼郡なる宮村祐部神社は、式内等舊社記に石を以て神寶とする」と記され、同郡桂谷の岩

神社、河北郡田上の神田神社、羽咋郡一宮寺家の大穴持像石神社、鹿島郡金丸の宿那彦神像石神社、同郡黒崎の宿那彦神像石神社も亦同じく、更に能登名跡志に據るときは、羽咋郡宿女の椎葉圓比咩神社、同郡梨谷小山の阿良加志比古神社も同種類に屬する。この外鳳至郡神道(今柿生)なる結界山に石佛と稱する自然石があつて、地方人の最も畏敬する所となつてゐる。殿宇の設はないが、これもまた石神であらう。

イシキリマチ 石伐町 金澤の舊町名。延寶の圖に、片側は二十人石伐九人、片側は同十一人とあつて、二十人石伐と稱せられる石工の住地であつた爲にこの名がある。今は上石伐町・下石伐町に分かれる。

イシキリヤマ 石伐山 三州事跡記に、石川郡鷹栖村石伐山は古城跡で、昔鷹栖某がここに居たとあるが、加賀志徴には石川郡に鷹栖村はないから、恐らくは同郡西市瀬の鷹栖堡をいふものであらうとしてゐる。

イシキリハラ 石切小原 石川郡河内庄にある部落。郷村名義抄には、往古より石を切出したから名づけたとある。本願寺諸寺系圖に三州野寺本願寺空登の弟公登が石川郡劍村の内小原村に住したとあるも是である。

イシグロイザエモン 石黒伊左衛門 正徳四年十二月御馬醫として召出され、二十人扶持を賜ひ、御馬奉行支配に關し、享保四年歿。子孫藩に世襲した。

イシグロイテロエモン 石黒市郎右衛門 大聖寺藩の御用人で、祿二百石。村井主殿の黨であつた爲、事頭れた後東野瀬兵衛に預けられ、寶永七年二月廿七日打首となつた。押

足輕成田藤右衛門麻上下にて首を打つたとある。

イシグロウネメ 石黒采女 初め越中松倉に住し、神保氏張に仕へたが、後前田利家に来仕して二百石を受けた。子孫藩に世襲した。

イシグロカクザエモン 石黒左衛門 初名權左衛門。父覺左衛門の遺知中七百石を襲いで足輕頭となり、大坂再役に三十九で首一を獲、千石に至つた。正保元年歿。

イシグロケイザブロウ 石黒圭三郎 ↓カツラマサナホ 桂正直。

イシグロゲンジ 石黒源次 能美郡金平の人。父祖皆澤村に居て十村役であつたから、澤村源次ともいはれた。源次寶曆四年父の後を受けて十村役となり、明和二年御扶持人並十村に進み、七年扶持高十五石を受け、安永元年金平金山縮方主附を命ぜられ、五年扶持十石を加増せられ、七年越中彌波郡にて七十石八斗、新川郡にて百六十石二斗を賜はり、九年又扶持十石、天明元年更に同額を加へ、九年無組御扶持人十村並となり、其の間藩の爲に種々の用務を勤め、十年新川郡舟見野新田用水普請主附を命ぜられ、その地に出張中十月六日歿した。歳七十。

イシグロゲンシユウ 石黒玄周 享保十年六月御醫師として召出され、京都に住して三十人扶持を賜うた。子孫周達・周軒を經、源五郎の時寛政九年御備者に列し、その子彦三郎も亦文政六年御備者となつた。